

## 酪農雑感(その2)

永井 仁

最近の酪農、乳業界には種々の問題点がありますが、なかでも次の2つが常に問題になっております。その1つに乳価問題があり、その2に酪農組織に関する諸問題が大きく頭をもたげておりますが、今回は乳価について、その後の諸情勢等について述べてみたいと思います。

畜産物の価格は、千日相場だといわれます。大体3年目、3年目に好不況の波があつて、乳価につきましても大体この例にもれないようです。最近の10ヵ年を振り返ってみても、第1回目は昭和29～30年、第2回は昭和32年暮から33年、第3回は昭和37年暮から38年と周期的に変動して居りますが、何れの時でもその理由は、生乳の生産が需要を上廻っている、即ち生乳の供給過剰が原因しているのです。

これを解決して乳価を安定するためには、次の様な措置をとらせました。即ち、第1回のときは、大かん練乳用砂糖の消費税の免除、第2回のときは、牛乳の集団飲用の推進による牛乳消費の拡大に加えて、学校給食用に生乳を使用する。第3回目は、畜産物の価格安定化等に関する法律にもとづいて、指定乳製品の買上げが行われ、又、世論の強い要求によりまして学校給食に生乳を使用することについて、供給単価の引上げや供給枠の拡大等一連の施策により、市況の好転を図り、乳価の安定に努めて参りました。

### —最近の酪農情勢—

久しく低迷が続けていた乳業界も、最近漸く明るい材料が整って参りました。その第1は、飲用牛乳の消費が順調に伸びていることでもあります。昨年、全国的にもそうですが、特に本県においては、1～4月の飲用向消費の伸びは、対前年比僅か105%で極めて低調であつたものが、今年の同じ時期で131%の伸びを示し、前年のそれと比較して25%も上廻り、極めて順調であることです。

第2は、乳製品の市況が昨年11月以来好転して、

乳業界のバックグラウンドが整備されたことです。全脂加糖練乳に例をとってみますと、昨年のこの頃、大阪卸価格のA級物24.5kgが3,700～3,800円であつたものが、現在では5,000円近くなつており、指定乳製品の安定上価格を上廻る勢を示しております。

第3には、安定した牛乳の消費市場を確立するために、学校給食に対し恒久的に牛乳が使用されることになり、国庫補助率の引上げもありましたが、県においてはこれを上置して、180cc当り4円65銭の補助とし、更に全国に初めてのケースとして、学校に施設を作る場合には補助金を出すようにしており、県内全児童生徒に生乳を供給できる体制が整つたことは喜ばしいことであります。一方生産の方をみますと、昭和36年の対前年比130%をピークとして、漸次下降線を辿り、最近にいたつては対前年比110%を下廻っており、今年の牛乳需給状況は必ずしも樂觀を許さないものがあります。

### —市乳小売価格—

昭和37年4月に2円値上げされて、末端16円で販売されていた飲用牛乳も、2年2ヵ月振りで2円値上げされることになりました。

この問題は、3月頃からくすぶって参りましたが、例の経済閣僚懇談会で今年1年は、公共料金を値上げしないという申し合せに基づいて指導されていましたが、5月末にいたり、今年の牛乳の需給事情からみて農家の生産意欲を高めるうえから止むを得ないという結論になり、5月21日付けで畜産局長通達が出され、次の要旨のように指導され、全国一斉に値上げされることになったわけです。その通達の要旨は

- (1) 家庭配達価格は180cc(1合)びんについて、値上げの限度は2円とすること。
- (2) 飲用牛乳の値上げ分の生産者、メーカー、販売店等の配分は自主的に決めるべきであるが、値上げの主旨からみてできるだけ生産者価格引上げに振り向けること。

## 岡山畜産便り 1964.07

- (3) 販売価格改訂にかかわらず、学校給食用牛乳価格は当初計画通り協力すること。
- (4) 乳業メーカーは、普通牛乳の製造割合を減らさないように努めること。  
(利潤の高い加工乳、スーパー、ミネラル、コーヒー牛乳等を多く販売しようとする傾向がある。)
- (5) 大型びん入り飲用牛乳の卸価格の値引きを図ること。
- (6) 乳業メーカーは、各種の合理化に努めるのは勿論であるが、特に容器について次の事項を早急に検討しその実現に努めること。
  - (ア) びんの大型化
  - (イ) びんの種類の整備 (丸びん、6角ビン等種々ある。)
  - (ウ) びん以外の容器の開発 (現在紙容器の開発が進み、実用化の段階に入っており、本県でも近く発売されるメーカーも考えられる。)
- (7) 小売業者は、大型びんや月ぎめの大口需要者に対して適当な値引きを行うとともに、消費者が月極めで店頭購入を希望する場合は、少くとも配達経費相当額の値引きを行うこと。
- (8) 小売業者は、業者間の無用の競争をさせて合理化に努めること。

以上により指導しております。これで小売価格が普通牛乳で18円となり、加工乳で20円以上になったわけであります。

学校給食に使う牛乳は、従来通り1本当り9円80銭で供給することの協力は得ております。しかしながら6月15日現在、生産者に配分される価格が決定されていないことは非常に残念なことであります。

牛乳を安く飲むためには、小売の段階の合理化が最も必要であることは勿論であります。これがために従来から牛乳の集団飲用が進められておりますことは喜ばしいことで、牛乳も将来月ぎめで店頭へ取りにゆくとか、団地、町内会等でまとめてとるようにして、安く沢山飲んで貰いたいと思います。

## —明るい話題—

6月18日の山陽新聞紙上に「"リコ"をかわいがって・・・。」という見出しで、落合から九州都城

市に売られたホルスタイン子牛の頸に生産者芦田晴夫さんの幼い子供さん達3人が、惜別の愛情を込めて託した手紙の報道は、なにかれと問題の多い酪農界に清風を吹き込んでくれました。

最近こんな明るい話題はなく、都城市の蒲生市長さんの談話に「芦田さん一家の願いをかけ橋にして、都城と岡山の相互提携を考えたい。」とあるように、岡山の酪農をこのような善意によって振興しようではありませんか。